旅の見どころ **1**

梅の里　越生町

越生町は、関東平野の西、秩父山地のふもとにあります。
盆地特有の寒暖の差を生かし、農業が盛んです。中でも盛んなのが梅の栽培。650年前、九州・太宰府から菅原道真の愛した梅を植えたのが始まりとされ、現在100軒あまりの農家が食用の梅を生産しています。
町を西から東に流れる越辺川（おっぺがわ）沿いは、小石が多く混ざった水はけのよい土壌で、梅が根を張りやすく栽培に適しています。

旅の見どころ **2**

梅とともに生きる農家

梅農家の宮崎定次郎さんは77歳。越生で50年梅を作り続けています。花が開く前、宮崎さんは枝の剪定（せんてい）作業に追われます。枝の生長が旺盛な梅。葉がしげった時に日ざしを遮る枝、花芽が多すぎる枝を選んで切り落とします。冬の剪定、収穫前の摘果、実をもいだ後に肥料。300本の木と共に、一年を通して梅の世話に追われる宮崎さんにとって、開花の時期はほっとしが癒される時です。

関東平野の西、
秩父山地のふもとにある埼玉県の越生町。
町を流れる越辺川（おっぺがわ）付近は、水はけがよく梅の栽培がさかんに行われてきました。その歴史はおよそ600年。町内に梅干や梅酒などに使う梅を生産する農家が100軒あまりあります。梅は2月末から開花を迎え、人々の目を楽しませます。長年にわたり梅を育て続ける農家、観梅の客をもてなす女性たち、そして梅林の風景を守ろうと奮闘する若手。
梅に寄せる思いとともに歴史ある梅の里を訪ねます。

旅の見どころ **3**

“この時期だけ”の店

およそ千本の梅の木が集まる観梅の名所、「越生梅林」。その一角に50年の歴史がある売店があります。売店が開かれるのは、1年にひと月あまり。梅の開花の時期です。
店に立つのは地元の女性たち。代々越生の婦人会が営んできました。冬に収穫し、庭で干し切り干し大根。秩父山地で見つけたフキノトウ。そして自家製の梅干し。
それぞれの家庭の味を持ち寄っています。

memo

アクセス方法
＜電車＞
池袋駅→東武東上線坂戸駅→東武越生線越生駅（約1時間）
＜車＞
関越自動車道→坂戸ＩＣ→越生町（約30分）

小さな旅

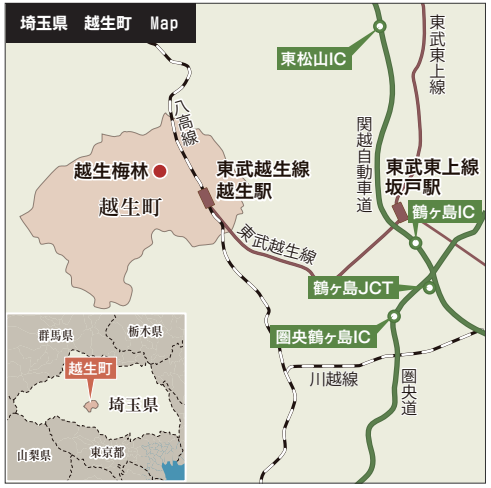
～こころのふるさとをみつめて～

コブック　vol. 89

梅が香るころ

～埼玉県　越生町～

2013年3月17日（日）放送



小さな旅　ホームページ
http://nhk.jp/kotabi